

# 那賀町議会からのお知らせ



編集・発行/那賀町議会  
ホームページアドレス : <http://www.town.tokushima-naka.lg.jp/gikai/>

平成30年6月定例会議

## 一般質問から

主な質問とこれに対する長や関係課等の答弁の要旨は次のとおりです。



田村信幸議員

今後の「那賀町教育方針及び教育施策」について

Q 「那賀町総合戦略」の具体的な施策をどのように進めていくのか。

岡川雅裕教育長

A 具体的な目標数値を示した新しい振興計画を2年間の内に作成する。

道の駅トイレの「温水洗浄便座」改修への取り組みについて

Q 「道の駅トイレ」を『温水洗浄便座』にどの要望に応えるには、どのような課題や問題点があるのか。

坂口博文町長

A 県は道の駅を防災拠点にしているために温水洗浄便座に随時変更していくと聞いている。驚数の道の駅については、今年和式の3器と洋式3器を温水便座に変更すると聞いている。



温水洗浄便座



鷺の里トイレ



久川治次郎議員

災害復旧について

Q 町道出羽線の復旧の見通しについて。

井本和行建設課長

A 5月3日に応急仮工事が完了した。今後は徳島県により、災害対策等緊急事業推進費の治山事業で、崩壊発生箇所の対策を実施して頂けると聞いている。

Q 災害時における旧木沢・旧上那賀地区の町道・林道等の迂回路としての整備について。

坂口博文町長

A 迂回路としての新設は、採択が厳しい状況なので現在の迂回路を整備し対応したい。今後、環境税で対応可能かどうか？また、町財政状況も含め検討していく。

林道整備について

Q 那賀町の林業活性化にとって林道の整備は重要な課題である。町長の見識は。放置された荒谷トンネルを活用し、受益面積300haもある荒谷へ林道開設を進める考えはないのか。

坂口博文町長

A 木材搬出には、林道・作業道は絶対的な必要条件であり、今後も環境税のみでなく従来の制度の予算確保を強く要望している。荒谷トンネルの活用については、林道のみならず関係機関と十分調整して有効な活用を検討していく。



荒谷トンネル 入口付近



山上健造議員

Jアラートについて

Q Jアラートが放送された場合、こういった行動をすればいいのか。

河井伸夫防災課長

A ①武力攻撃情報と②津波警報・緊急地震速報の2種類あるが、①であれば、屋外にいる場合は近くの建物や地下に避難。建物がない場合は物陰に身を隠すか地面に伏せて頭部を守る。屋内に居る場合は窓から離れる。

和食地区床上浸水対策特別緊急事業について

Q これから、本格的に工事が始まるが、土の運搬または搬入の際のほり対策はどうなっているのか。

坂口博文町長

A 粉塵は勿論、通行の安全面も含めて対応していただくことを強く要望し、最善を尽くしていただけている。

河井伸夫防災課長

A 埃に関する苦情は今まで1件あったが、県に報告し迅速に対処していただいた。



連記かよ子議員

介護保険料について

Q 介護保険料が高くなった要因は。

池田繁人保健医療福祉課長

A 高齢化率の上昇と要介護者数、また要介護認定率の伸びであると考えられる。そうした結果、サービス利用者の増に伴い、施設・在宅等のサービス給付費の増加に繋がっていったことが要因と考えられる。

糖尿病予防策について

Q 特定健診の受診率・透析患者数・食生活改善の指導や周知はどうなっているのか。

池田繁人保健医療福祉課長

**A** 特定検診受診率は、現在暫定県下2位（国保分）。透析患者数は、昨年度実績で19名。糖尿病の方が半数を占め、重症化予防対策を実施している。医療と連携した保健・栄養指導のもと透析導入が延伸されたため、昨年度の透析導入はゼロとなっている。食生活の改善・指導は、健診結果や医療機関の依頼により管理栄養士が対象者に訪問・栄養指導、地域においてはヘルスメイト活動を行っている。

## インバウンド施策について

**Q** 那賀町を訪れている外国人の数について。また、外国人にも分かりやすい看板の設置やPRについての具体策はあるのか。

**西田暁信にぎわい推進課長**

**A** 外国人観光客は増えていくものと思われる。インバウンド対応として鷺の里のトイレ洋式化や英語版パンフを作成している。今後は「四国の右下観光局」と連携し効果的なPRを行う。



## 静好洋議員

### 那賀川床上浸水対策特別緊急事業における輪中堤建設の外水対策について

**Q** 那賀川床上浸水対策特別緊急事業では、床上浸水は免れるが床下浸水は免れないと理解しているが町長の見解は。

**坂口博文町長**

**A** この事業は、床上浸水対策を基本ということだったので、床下浸水については、町単独で内水を含めて排水路の施行をするなどで対応していく。

## 内水対策について

**Q** 本流那賀川の越水は免れても支流南川の越水懸念があることについての見解は。

**坂口博文町長**

**A** 内水対策については、排水路に併せて排水ポンプの導入も検討している。樋門の構造においても排水ポンプの使用が出来るようにしていただく。

**河井伸夫防災課長**

**A** 土佐地区の雨水の一部を南川へ流しても、その流量は南川の計画流量に対してわずかであるため、分流水路事業により南川が越水することはないと聞く。

**Q** 近年の局地的豪雨・線状降水帯災害に鑑みると、内水からの要因で床上浸水の可能性はないとは言えないがその見解は。

**河井伸夫防災課長**

**A** 分流水路事業では、降雨強度を143mm/時で設計し

ているので、ダム放流量が小さく、那賀川本流の水位そのものが上昇していなければ、内水による床上浸水はしないと考えている。



## 福永敏行議員

### 防犯灯について

**Q** 那賀町の現状を踏まえ、防犯灯の早期LED化と町管理を考えてみてはどうか。

**河井伸夫防災課長**

**A** 修理が必要な防犯灯は、順次LEDに交換している。全てLED化すると電気代が安くなり、交換コストと電気代は7年で逆転する。一斉に換えるのもひとつの方法だが、他の事業との優先順位を考えながら検討する。



## 山崎篤史副議長

### 人口減少対策について

**Q** 人口減少対策について、新しい教育長、また各支所長の考えは。

**岡川雅裕教育長**

**A** 子育て等に対する経済的支援の情報を提供する。結婚や子育てが良いものと思える気持ちを芽生えさせる。

**新田尚輝相生支所長**

**A** 学校や病院等に近い住環境がある程度整った位置に住宅用地を確保できれば、農林業に就く人も、近隣市町村へ通勤する人も住んでいただけるのではないのかと思う。そして、那賀町の祝い金や支援事業等の制度を十分に活用いただきたい。

**河野晶上那賀支所長**

**A** 住環境・教育環境が崩壊しつつある中で人口減少を食い止める方法はない。生活基盤が失われようとしている所へ新たに人を呼び込むのも難しいと考える。

**高石道徳木沢支所長**

**A** 移住者・定住者の対策については、関係各課と連携し対応する。出身者の方にUターンを呼びかけていただけるよう、住民の安心・安全な生活のためニーズ

に沿った対応に努めたい。

**後藤交峰木頭支所長**

**A** 就業機会の確保は農業でJA初め木頭ゆずブランドを活用した業者が複数あり就業機会はある。生産量の確保等大手メーカーからの要望もあり、1次産業の後継者対策を行い、この流れを継続するような支援をしていくことにより人口減少対策は行える。

**Q** 「第3子出産祝金100万円」という制度が12年前にできているが、その実績は。

**佐々野嘉代すこやか子育て課長**

**A** 出産祝い金加算金制度の平成22年度から29年度の交付金額は合計2775万円。15年を経過しないため百万円の実績はないが、10年目の実績から今後15年目に合計百万円に該当される方が数名と予測される。

## 人材育成について

**Q** ①研修状況は適切かつ充足しているか。②組織内のコミュニケーションの機会は適切かつ充足しているか。

**新居総務課長**

**A** ①内部研修を5回実施し、外部研修は徳島県自治研修センターに委託し実施している。状況は公表している。②人事評価を行うことで職員とのコミュニケーションを図っている。

## 観光資源の利活用について

**Q** ①那賀川には「はこぶね(野猿)」が存在していたが、現在残っているか。②あいあいらんど側ともみじ川温泉側を繋ぐ「はこぶね」を開通させると大きな観光資源になると考えるが、設置運用する上でのコストや申請許可等はどの程度のものと考えてるか。

**坂口博文町長**

**A** 使用可能な野猿は残っていない。許可は河川の上空占用も含めて難しい。

**西田暁信にぎわい推進課長**

**A** 建築費や建築後の安全面への配慮、維持管理費、人件費等に相当な費用が掛かると思われ、事業の継続性の面から建築・運営は難しいと思われる。



## 柏木岳議員

### 消防署現体制について

**Q** 上流出張所の救助体制の構築、上流部での火災への対応、過去に起きた消防署長無資格問題への反省点を踏まえた組織づくり等への対策は充分に成されているか。

**西本安廣消防長**

**A** 救助資機材（初動用）を購入し、初動活動できるよう準備している。救急を主に行っており、火災は消防団と連携活動となる。職員間の風通しをよくするため、毎月1回会議と年2回全体会議を開き、意思統一を図っている。

## 新教育長の学校を通した地域づくりへの認識について

**Q** これまでも相当こたわって学校施設の存続が地域活力の維持に不可欠であることを説いてきた。教育長の交代に伴い、新教育長の認識を聞きたい。

**岡川雅裕教育長**

**A** 情報を相手（保護者・地域住民）に正しく伝えて、その上で全体的なことを配慮しながら判断する。

## 目指すべき新時代に向けての地方政治力の強化へ首長と議会の関係について

**Q** 議会活性化には首長の価値観・取り組み姿勢の変化も大きく寄与する。行政は無謬ではなく、議論を通じて制度を改善させていく下地を積極的に構築していく姿勢を更にお願したい。

**坂口博文町長**

**A** 自分がしていること、また行政側から提案した案件が無謬（誤りが無い）と思っていない。議員提案についても、全て無謬と思っていないので修正箇所をお願いすることもある。充分議論し対応してゆく。



## 新居敏弘議員

### 介護保険料の減免制度創設について

**Q** 低所得者に対する減免制度を、那賀町でも創設する考えはないか。

**坂口博文町長**

**A** 介護保険制度の3原則（1全額免除はしない。2収入のみに着目した一律の減免はしない。3減免の財源を一般財源から繰り入れしない。）の中で今後次期までに制度の見直しも要望しながら対応したい。

## 就学援助制度における新入学学用品費の前倒し支給について

**Q** 来年度入学から実現していただきたいが、どうか。

**岡川雅裕教育長**

**A** 来年度からの実施に向けて、調査・検討を行う。

## 一人暮らし高齢者等への施策について

**Q** 一人暮らし高齢者等への施策としてどのようなものがあるか。また一人暮らし高齢者等の世帯数及び

緊急通報装置の整備数は。また平成29年度では新たな緊急通報装置の整備事業、日常生活用具給付事業の件数は。

**池田繁人保健医療福祉課長**

**A** 施策として、在宅支援サービスが、緊急通報設置、日常生活用具給付、住宅改造費等の助成、福祉用具のレンタル。介護予防を目的としたサービスの相談窓口対応。また、軽度生活援助等。高齢者等に関係するものは、外出支援（タクシー半額補助）・移動支援（身体障がい認定者）等。その他にも、シルバー人材サービス、成年呼応件制度の支援事業等がある。一人暮らし高齢者世帯数は、1092世帯。緊急通報装置の新規設置数は2件、日常生活用具給付は0件である。



## 株田茂議員

### 国道からの景観について(1)

**Q** 国道195号線の百合ヶ朝生の川沿いの杉が伐採されて住民から好評であるが、他の区間においても実施するつもりはあるか。また、景観保持の観点から跡地利用についてはどう考えているか。ミツマタを植えてはどうか。

**坂口博文町長**

**A** 地権者のご理解と予算面も含めて検討していきたい。低木の植林や遊歩道の設置など、ご提案をいただいているので、今後、維持管理を含め状況等を見ながら検討していく。



### 国道からの景観について(2)

**Q** 風倒木を放置すれば、木頭杉産地としてのブランドに傷がつきかねないと思うがどうか。

**西本忠司林業振興課長**

**A** 風倒木処理には、山林所有者の負担が必要になり事業実施に至っていないが、来年度以降実施される森林環境譲与税での対応を、将来に向かい検討する。

## メディアドウの藤田構想について

**Q** 美那川キャンプ場はCAMP PARK KITOとして、この夏オープンを目指して着々と整備されているようであるが、他の計画はどうなっているか、報告を受けているのか。

**坂口博文町長**

**A** これまでの構想と違ってきていることもあり、今後、地域の皆さん方及び地権者の方に計画内容を理解していただき、計画内容を充分精査していただき進めていただくことをお願いしている。